

令和 5 年 5 月 13 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K10552

研究課題名(和文) 専門職連携のための専門職連携によるFD実践のための基盤研究とプログラム開発

研究課題名(英文) Fundamental research and program development for interprofessional faculty development

研究代表者

伊藤 彰一 (Shoichi, Ito)

千葉大学・大学院医学研究院・教授

研究者番号：60376374

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：看護師特定行為研修における指導者育成(IPFD)についての質的検討の結果、特定看護師、研修生、指導者(医師・看護師)による特定行為実践の振り返りの有用性が明らかになった。また、IPFDによる研修成果を診療に活かすことでIPWや看護師特定行為の重要性の認識が高まり、効率的かつ効果的な患者ケアが提供できるように変化していることが確認できた。

多職種を対象とする新入職員研修におけるIPFDについての質的検討の結果、各研修実施部門の研修内容等の情報共有によって職種間の相互理解や協働が促進されることや、IPFDによって企画・運営された研修がIPWの理解と促進のために有用であることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

専門職連携は、患者ケアを向上し、医療費を削減し、国民の健康を増進させるものであり、医療安全の向上に不可欠である。専門職連携を向上させるためには、その指導者の育成(IPFD: Interprofessional faculty development)が必要である。本研究は、IPFDで期待される効果を明らかにした。このことは今後の専門職連携の発展、すなわち患者ケアの向上のために重要である。

研究成果の概要(英文)：The results of a qualitative study of interprofessional faculty development (IPFD) in nurse practitioner (tokutei-kangoshi) training revealed the usefulness of conferences between nurse practitioners, trainees and supervisors (doctors and nurses) to reflect on specific practice. It was also observed that the recognition of the importance of IPWs and nurse practitioner (tokutei-kangoshi) increased and changed to provide efficient and effective patient care as a result of the application of IPFD training outcomes in practice.

The results of a qualitative study of IPFD in multi-professional training for new faculty and staff showed that mutual understanding and cooperation between professions is promoted by sharing information about training content and other information from each training department, and that training planned and organised by the IPFD is useful for understanding and promoting IPW.

研究分野：医学教育

キーワード：専門職連携教育 ファカルティ・ディベロップメント

## 1. 研究開始当初の背景

専門職連携 (**Interprofessional Work: IPW**) は、患者ケアを向上し、医療費を削減し、国民の健康を増進させるものであり (**Watkins, 2016**)、医療安全の向上に不可欠である。近年、**IPW** を実現・充実させるための専門職連携教育 (**Interprofessional education: IPE**) が注目され、**2013** 年、米国における **Liaison Committee for Medical Education (LCME)** の大学認証基準項目に **IPE** が組みこまれた。日本においても、医学教育モデル・コア・カリキュラムの平成 **28** 年度改訂版において、以下のように **IPW**、**IPE** の重要性が説明されている。

医学教育に携わる各関係者をお願いしたいこと

「卒後の医療現場では、チーム医療や多職種連携の観点から、医療系に限らず、また資格系職種に限らず、多くの職種との協働が求められる。このため、卒前段階からこれらを意識した教育が実施できるよう、様々な形で協力いただきたい。」(一部抜粋)

**IPW**、**IPE** を効率的・効果的に実施するためには、その指導者の育成が必要であり、それは **IPFD (Interprofessional faculty development)** とよばれている。**IPFD** は専門職連携によって実施されることが効果的とされており (**Hall & Zierler, 2015; Anderson, Ford & Kinnair, 2016**)、このような **IPFD** は「専門職連携のための専門職連携によるファカルティ・ディベロップメント」と言い換えることが出来る。**IPFD** は全ての医療機関に求められるが、特に整備された医療安全管理体制下での「高度の医療の提供」、「高度の医療に関する研修」などの役割をもつ特定機能病院においては必須である。

**IPFD** についての研究は発展途上にあり、現時点で得られている知見は多くはない。**2016** 年の論文レビューでは、今後検討すべき **IPFD** の研究課題として、**IPFD** の計画チームの編成、**IPFD** で期待される効果、**IPE** の学術的なリーダーシップ、**IPE** のリソースの確保、理論の応用方法などが挙げられている (**Watkins, 2016**)。これらを踏まえて効果的な **IPFD** を計画・実施することが **IPE**、**IPW** の発展、すなわち患者ケアの向上のために必要である。

## 2. 研究の目的

- **IPFD** 計画チームを編成し、各メンバーの役割及び協働の在り方を検討する。
- 各フロア (診療現場) の **IPW**、**IPE** の現状をふまえて **IPFD** の目標を設定する。
- **IPFD** の目標達成のために効果的・効率的と思われる **IPFD** プログラムを導入・実践し、そのプログラムが **IPE**、**IPW**、患者ケアに与える短期・長期効果を評価する。

## 3. 研究の方法

- 多職種で構成される **IPFD** 計画チームを編成する。
- **IPFD** 計画チームのメンバーに対して **IPE**・**IPW**・**IPFD** についての教育を行う。
- **IPFD** の目標を設定する。
- **IPFD** の目標を達成するための **IPFD** プログラムを開発する。
- **IPFD** プログラムを試行的に導入する。
- **IPFD** 計画チームの機能、各メンバーの役割および協働等の評価を行う。
- **IPFD** の導入により **IPE**、**IPW** がどのように改善したか、各フロアの価値観に変化がみられたか、患者ケアに変化が見られたか等について、**IPFD** の参加者や **IPFD** プログラムを導入した各フロアを対象に長期的なフォローアップ評価を行う。

## 4. 研究成果

### 4 - 1. 看護師特定行為研修

本研究の対象となる研修の一つとして看護師特定行為研修を選択した。**2020** 年度から研修を開始するための研修チームを編成した。このチームは **IPE** 計画チームを兼ねることとした。まず、研究代表者が医師の取りまとめ役となり、関連する診療科 (救急科、外科、内科) の医師に協力を依頼した。また、研究分担者を含む教育担当看護師とともに、本研修に関わる看護師メンバーを選定した。

研修チーム (**IPFD** 計画チーム) に対して、**IPE**・**IPW**・**IPFD** についての教育を行った。研修開始に向けての打合せを重ね、チームメンバーの業務内容や分担等を決定した。研修の理念や目標を作成して共有し、効果的な研修方略や研修評価について検討した。

千葉大学医学部附属病院は千葉県唯一の大学病院として、本学の関連部局と連携した高度実践的看護臨床教育を通して、地域医療の質向上を目指します。地域で暮らすすべての人々が安心して質の高い医療サービスを受けられ、最後まで自分らしく生ききるよう、安心して安全な医療を提供でき、現場の役割モデルとなる看護師を育成することで、看護・医療の質向上につなげます。

《研修の目標》

特定行為に係る実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能を修得し、地域医療の中で医療専門職と協働しながら、患者の生命、生活の質向上に向けて活動できる実践能力を持つ看護師を育成します。

上記の理念及び目標達成のための **IPFD** の目標を設定した。

- 看護師特定行為研修制度の理解
- 研修者・指導者・医療機関のニーズの理解
- 看護師特定行為研修終了後の看護師の役割の理解
- 指導実践のための教育理論・指導方法の習得
- 研修生の支援

この **IPFD** の対象者としては、研修開始時点より指導的立場にある医師や看護師に加えて、研修を修了した看護師（特定看護師）も対象とした。**IPFD** の方略としては、毎月開催する **WG**・委員会にて関連事項の理解促進を図るための意見交換をするとともに、演習の指導、**OSCE** での評価、実習での指導などの **on-the-job training** を行った。看護師特定行為研修の対象とする特定行為の種類を経年的に増やしていくとともに、**IPFD** を継続した。

**2021** 年度から特定看護師、研修生、指導者（医師・看護師）による特定行為実践を振り返るカンファレンスを開始した。質的検討の結果、このカンファレンスが **IPFD** として有用であることが明らかになった。また、看護師特定行為の実践すなわち **IPFD** による研修の成果を診療に活かすことによって、**IPW** や看護師特定行為の重要性の認識が高まり、効率的かつ効果的な患者ケアが提供できるように変化していることが確認できた。今後、**IPFD** の参加者や **IPFD** プログラムを導入した各フロアを対象に長期的なフォローアップ評価を行っていく予定である。

#### 4 - 2 . 新入職員研修（多職種参加型研修）

本研究の対象となる研修の一つとして新入職員研修（多職種参加型研修）を選択した。まず、**2021** 年度より新人医師（研修医）および看護師を対象とする合同採血研修を企画・実施した。指導にあたる医師および看護師が共同で研修の目標を設定し、研修方略を立案し、共同で指導にあたった。**2022** 年度から臨床検査技師も参加者・指導者に加わるようになった。

《合同採血研修の目標》

- 静脈採血の目的や留意点、手技の根拠を説明でき、的確に実施できる
- 術者として演習を振り返り、フィードバックも踏まえて今後の学習課題を見出すことができる
- 模擬患者として患者の気持ちを理解し、術者にフィードバックができる
- 観察者として術者が行う手技を観察し、術者にフィードバックができる
- 専門職者が協働する中で医療職に共通する資質、能力を理解できる

次いで、**2022** 年度から対象職種を全ての職種（医療職の他に事務職も含む）に拡大した新入職員研修（多職種参加型研修、ハンズオンまたはワークショップ形式）を企画・実施した。このために総合医療教育研修センター内に教育研修管理チームを設置し、研究代表者がリーダーとなってチームの活動方針や新入職員研修の目標や内容についての意見交換を行った。その結果、研修テーマは専門職連携（**IPW**）、接遇、メンタルヘルスケア、感染対策となった。

《新入職員研修の目標》

- 病院における接遇の意義を知り、状況に合わせた適切な接遇が自然にできるようになる。
- メンタルヘルスの重要性を知り、セルフケアを実践できるようになる。
- それぞれの職域において患者中心の医療の実現に向けた専門職連携実践を行うために必要な知識、技術、態度を理解し、演習を通してこれらの知識技術態度を獲得し、実践できるようになる。
- 安全に診療することができるように病院における基本的な感染対策を実践できるようになる。

この目標達成のための **IPFD** として以下の方針を立てた。

- 各研修実施部門の情報収集を行い教育研修管理チーム内で情報を共有し意見交換する。

- 効果的・効率的な研修実施に向けて、研修実施部門間の連携・協働を含め、研修の継続的改善を行う。

この **IPFD** の対象者は教育研修管理チームの全構成員とした。隔月で各研修実施部門が持ち回りで研修内容等の情報共有を行った（情報交換会の実施）。また、定期的に情報交換会や各研修の振り返りを行った。質的評価の結果、**IPFD** としての情報交換会の効果（相互理解や協働の促進）が確認された。また、新入職員研修の効果判定のために実施したアンケート調査により、**IPFD** によって企画・運営された研修が **IPW** の理解と促進のために有用であることが明らかになった。今後、**IPFD** の参加者や **IPFD** プログラムを導入した各フロアを対象に長期的なフォローアップ評価を行っていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 酒井 郁子、伊藤 彰一、箭内 博子、大島 拓、新井 加代子、竹内 純子	4. 巻 32
2. 論文標題 特定行為研修修了者の活躍を支える構想・育成・配置・活用と看護管理者の役割 千葉大学医学部附属病院における組織的支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護管理	6. 最初と最後の頁 218～226
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石井 伊都子  (Ishii Itsuko)  (00202929)	千葉大学・医学部附属病院・教授   (12501)	
研究分担者	朝比奈 真由美  (Asahina Mayumi)  (00302547)	千葉大学・医学部附属病院・特任教授   (12501)	
研究分担者	酒井 郁子  (Sakai Ikuko)  (10197767)	千葉大学・大学院看護学研究科・教授   (12501)	
研究分担者	鋪野 紀好  (Shikino Kiyoshi)  (10624009)	千葉大学・医学部附属病院・特任助教   (12501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松本 暢平 (Matsumoto Yohei) (30737755)	千葉大学・国際未来教育基幹・助教  (12501)	
研究分担者	横尾 英孝 (Yokoh Hidetaka) (70724657)	千葉大学・大学院医学研究院・講師  (12501)	
研究分担者	笠井 大 (Kasai Hajime) (70815076)	千葉大学・医学部附属病院・特任助教  (12501)	
研究分担者	井出 成美 (Ide Narumi) (80241975)	千葉大学・大学院看護学研究科・准教授  (12501)	
研究分担者	臼井 いづみ (Usui Izumi) (80595984)	千葉大学・大学院看護学研究科・特任講師  (12501)	
研究分担者	相馬 孝博 (Soma Takahiro) (90262435)	千葉大学・医学部附属病院・特任教授  (12501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------